

1 事業報告（令和3年度 令和3年4月1日 ～令和4年3月31日）

1. 人材の養成に関する育英事業(公益目的事業1)

- (1) 令和3年度の新規貸費生は3名（全員貸費月額4万円）、継続者を含めた貸費生人数は34名であった。貸費金の合計は、金14,380,000円。
また、受入返金額は、金30,892,000円。期末の貸費学資金の残高は、金141,431,000円（前年度末日比16,512,000円減）である。また、令和4年度の貸費生10名を内定した。
- (2) 給付型の若葉奨学基金では、計7名の給付生に年間計1,680,000円を給付した。また、令和4年度の給付生2名を内定した。

2. 文化財の維持・管理および公開事業(公益目的事業2)

- (1) 令和3年度の「丙申堂」と「無量光苑釈迦堂」の入場者数は、両堂の合計で6,236名（うち丙申堂3,675名、釈迦堂2,561名、前年比では103名増）。コロナ禍の二年目、丙申堂では214名増加し、釈迦堂では111名減少した。コロナ感染の波が続き、休館こそしなかったが、入場者は戻らず、一昨年にと比べると4割弱にとどまった。
- (2) イベント企画
 - ・7月19日(月)丙申堂のお座敷で、羽黒山伏の星野文紘氏の著書「野生の力を取り戻せ」の出版記念トークショーを開催した。共著者の渡辺清乃さんとの対談で、約50人が集まった。午後7時から8時30分まで。
- (3) 「丙申堂のひな祭り」は、3月12日～4月3日に開催した。吉徳資料室のご協力をいただき安政2年の象牙雛と昭和16年野口光彦作の井筒雛を展示した。入館者は昨年の一割増で、307名であった。
- (4) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手指消毒のディスペンサー、検温用サーモグラフィーを購入し、トイレの手洗い自動水栓化工事を実施した。山形県観光立寄施設緊急支援事業費助成金を活用した(経費の3分の2助成)。

3. 山林を活用した地球環境保全事業(公益目的事業3)

(1) 藤沢の山林で開催している森林体験学習会について

春：6月13日(日)新型コロナウイルス感染拡大防止の為午前中半日の活動にした。参加者7名(子ども5名、大人2名)、スタッフ8名の計15名。整備された山道を歩いて、修験道の古い遺跡である岩屋洞窟まで辿った。

秋：10月30日(日)、子ども2名、大人2名そしてスタッフ7名、山大生2名の計13名で実施。快晴で気温20度と天候に恵まれた。参加者は、湧き水を飲んだり、木の笛を作ったりして時間を過ごした。午後には、伐採の現場を見学し、最後に林道の展望が開けたところまで歩き、庄内平野の景色を楽しんだ。

(2) 山林の整備事業については、今年度も下刈、枝打、つる切、間伐等に努めた。丙申堂の屋根葺き替えの材料になる杉皮を、今年度も採取した。

4. 土地、建物の貸与事業(収益事業)

(1) 基本財産の土地及び建物を(株)庄交コーポレーション、(一社)鶴岡地区医師会、(株)荘内ハウジング、NPO 法人しえば外に、また特定資産の駐車場を一般利用者に賃貸した。運用財産の土地、建物(銀座通り、旧金屋リビング)及び隣地駐車場については、庄内文化センターに賃貸した。

(2) 日本仏教史研究講座、特に聖徳太子講座開設等の運用資金として、公益財団法人中村元東方研究会東方学院へ、昨年同様40万円寄付した。また、日本仏教研究の為、東京大学文学部印度哲学仏教学研究室に対し例年同様50万円の寄付をした。

以 上